



病院レストランを 考え直しませんか？

最近、院内にレストランやカフェスペースを設ける病院が増えてきました。病院に来た方々が、思い思いに集い、談笑し、食事をとるレストランですが、その業務の多くは外部の業者委託であり、病院という場が提供するのどどのようなレストランが良いのか？というテーマについて、医療や患者の目線からはこれまであまり考えてこられなかったのではないのでしょうか。そもそも、病院の中にレストランがある意義・役割とは何でしょうか？患者さんや、医療の立場から見た「理想のレストラン」とは？

このような思いから、このたび私達は、川崎市立井田病院（神奈川県川崎市中原区井田 2-27-1）の有志を中心に「レストランサポートプロジェクト」を立ち上げました（発起人：川崎市立井田病院 医師 西智弘）。

予防医療が重要視されている昨今、医療者と市民と一緒に、レストランという場を通じて「食」を考え直す、というのは全国でも初めての企画であり、今後、本邦において病院レストランを考える上でのモデルとなる知見を提供していけるものと考えております。

本企画は、病院レストランも待合空間におけるアメニティのひとつとして、「医療資源」として有効活用すべき対象と考えられることから、「待合室から医療を変えようプロジェクト※」にもご後援頂いております。また、本企画を通じて、待合空間から医療を変えるひとつの実践例が提供できることを意図しております。

2013年4月から始まったこのプロジェクトは、約1年間をかけて、市民・医療者だけではなく地域のNPO法人、栄養士、企業などとの対話を通じて、来年春に成果を発表できるよう検討を進めております。

ぜひ、我々「レストランサポートプロジェクト」の活動にご期待下さい。



←神奈川新聞にも連載記事で取り上げて頂きました。

・問い合わせ先 レストランサポートプロジェクト事務局

〒211-0035 川崎市中原区井田 2-27-1 川崎市立井田病院かわさき総合ケアセンター

TEL:044-766-2188 FAX:044-788-0589

西 智弘(腫瘍内科/緩和ケア内科)

e-mail: tonishi0610@hotmail.co.jp

※待合室から医療を変えようプロジェクト:待合室をひとつの重要な医療資源と考え、それを有効利用することで医療の改革につなげようという活動。2013年3月に公開シンポジウムが開かれ、その後多くのメディアで取り上げられている。主催は、東京大学公共政策大学院医療政策教育・研究ユニットにおける自主的社会的活動である医療政策実践コミュニティ(Health Policy Action Community; 略称 H-PAC)。

【クリニックITフォーラム2013/待合室から医療を変えようプロジェクト資料】